



## 株式会社荏原製作所

2023 年 12 月期 通期決算説明会

2024 年 2 月 14 日

## イベント概要

[企業名]	株式会社荏原製作所
[企業 ID]	6361
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 12 月期 通期決算説明会
[決算期]	2023 年度 通期
[日程]	2024 年 2 月 14 日
[ページ数]	44
[時間]	17:30 – 18:57 (合計：87 分、登壇：35 分、質疑応答：52 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	8 名 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 兼 COO 浅見 正男 (以下、浅見) 執行役 建築・産業カンパニープレジデント 永田 修 (以下、永田) 執行役 エネルギーカンパニープレジデント

	宮木 貴延 (以下、宮木)
執行役 インフラカンパニープレジデント	太田 晃志 (以下、太田)
執行役 環境カンパニープレジデント	山田 秀喜 (以下、山田)
執行役 精密・電子カンパニー 事業統括責任者 兼 カンパニーCOO	
	蓬臺 昌夫 (以下、蓬臺)
執行役 CFO	細田 修吾 (以下、細田)
経営企画統括部長	大崎 晃裕 (以下、大崎)



## 2023年12月期 決算説明会資料 荏原 (6361)

2024年2月14日

Looking ahead,  
going beyond expectations  
*Ahead > Beyond*

株式会社 荏原製作所

**大崎**：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所の2023年12月期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより会を始めさせていただきます。本日の15時に、決算関連の書類を東証のプラットフォームならびに当社ホームページに開示しております。そちらもご覧いただきながら、ご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。私どもの出席者をご紹介します。代表執行役社長、浅見正男でございます。

**浅見**：浅見です。よろしくお願いいたします。

**大崎**：建築・産業カンパニープレジデント、永田修でございます。

**永田**：永田です。よろしくお願いいたします。

**大崎**：エネルギーカンパニープレジデント、宮木貴延でございます。

**宮木**：宮木です。よろしくお願いいたします。

**大崎**：インフラカンパニープレジデント、太田晃志でございます。

**太田**：太田です。よろしくお願いいたします。

大崎：環境カンパニープレジデント、山田秀喜でございます。

山田：山田です。よろしくお願いいたします。

大崎：精密・電子カンパニーCOO、蓬臺昌夫でございます。

蓬臺：蓬臺です。よろしくお願いいたします。

大崎：CFO、細田修吾、IR 担当執行役でございます。

細田：細田です。よろしくお願いいたします。

大崎：司会は、経営企画統括部、大崎が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 目次



<b>当決算におけるポイント</b>	<b>P3</b>	<b>4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗</b>	<b>P20</b>
<b>1. FY23 連結決算サマリ</b>		<b>5. 補足資料</b>	
・連結業績	<b>P5</b>	・受注高	<b>P31</b>
・セグメント別	<b>P6</b>	・売上収益	<b>P32</b>
・営業利益増減分析	<b>P7</b>	・営業利益	<b>P33</b>
・地域別売上収益	<b>P8</b>	・受注残高	<b>P34</b>
<b>2. FY23 セグメント別業績</b>		・地域別売上収益	<b>P35</b>
・建築・産業	<b>P10</b>	・サービス&サポート(S&S)売上収益	<b>P36</b>
・エネルギー	<b>P11</b>	・貸借対照表	<b>P37</b>
・インフラ	<b>P12</b>	・キャッシュ・フロー	<b>P38</b>
・環境	<b>P13</b>	・資本的支出、減価償却費、研究開発費	<b>P39</b>
・精密・電子	<b>P14</b>	・ESG Topics	<b>P40</b>
<b>3. FY24 業績予想</b>		・事業セグメントの変更	<b>P41</b>
・連結業績	<b>P16</b>		
・セグメント別	<b>P17</b>		
・営業利益増減分析	<b>P18</b>		
・株主還元	<b>P19</b>		

- 略語の説明
- ・ FY：会計年度（例「FY23」は2023年12月期会計年度）
- ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している

本日のスケジュールでございますが、決算概要を CFO の細田より、続けて今期の見通しを、社長の浅見より説明させていただきます。その後に、皆様からのご質問をお受けいたします。終了時刻は 19 時を予定しております。それでは、細田より説明に入らせていただきます。

## FY23 業績

		前期比*	前回計画比*
受注高	8,205 億円	+53 億円 +0.7% →	+305 億円 +3.9% →
売上収益	7,593 億円	+784 億円 +11.5% ↗	+123 億円 +1.7% →
営業利益	860 億円	+154 億円 +21.9% ↗	+150 億円 +21.2% ↗
営業利益率	11.3%	+0.9pts	+1.8pts

\*△は+5%以上、▽は-5%以上の変化、→は変化が±5%未満

## FY24 業績予想

		前期比*
受注高	8,340 億円	+134 億円 +1.6% →
売上収益	8,270 億円	+676 億円 +8.9% ↗
営業利益	870 億円	+9 億円 +1.1% →
営業利益率	10.5%	-0.8pts

## トピックス

### FY23 業績

- 半導体市場が低迷し、各地で地政学リスクが高まる不透明な事業環境においても、継続的な売上成長と収益性改善に向けた施策によって、全社業績は過去最高を更新。特に営業利益は前期比で大きく伸長
- 計画比でも受注高、売上収益、営業利益ともに上振れ

### FY24 業績予想

- 精密・電子を中心に成長投資を加速させるほか、人材の確保を含む人的資本の強化等、基盤投資を推進するため F23年比で営業利益率は低下するが、引き続き高い利益水準を維持

### 配当金 予想

- FY23の1株当たり年間配当金を229円（従来計画195円）へ引き上げ
- FY24の1株当たり年間配当金は230円（中間115円、期末115円）を計画

3 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

**細田：** それでは、細田からご説明いたします。まず、終わった期の通期の連結業績からご説明しますが、ポイントは大きく3点ございます。1点目としましては、今回の決算は総じて良い決算だったと申し上げられるかと思えます。

事業環境、経営環境としましては、半導体市場の低迷や、地政学的にも先行き不透明な状況が継続し、景況感としても必ずしも良い状況ではなかった面もありましたが、その中でも、当社グループの業績としましては、全5セグメントにおいて対前年比増益となりまして、全体として過去最高業績を更新しての着地となっております。

2点目として、内訳を見ても、当社グループの業績の中ではここ数年、半導体市場の異次元の成長の恩恵を受けて、精密・電子セグメントがけん引している年度が多かったのですが、他のセグメント、特に建築・産業やエネルギーが利益成長をけん引していた決算となりました。その意味で、当社グループの事業ポートフォリオのユニークさの良い面が出た決算と言えるかと思っております。

3点目としましては、直近の見通しとの比較という観点で、受注、売上、営業利益、全て上振れをしており、受注・売上は若干の上振れですが、営業利益は特に大きく上振れして着地したという点がございます。見通しが甘かったと言ってしまうかもしれませんが、その背景には、第3四半期の時点で想定できなかったポジティブな事象が発生したという一過性の側面、それから、過去から粛々と進めてきた収益性改善施策の積上げによって、各事業セグメントにおいて想定以上に収益性の実力値が上がってきていたという、継続性のある側面の両面があるかと思っております。

2024年の通期業績予想につきましては、引き続き将来に向けた成長投資、基盤投資をしっかりと実施しつつも、2023年以上の利益水準を目指す計画を発表させていただいております。

株主還元につきましては、配当性向35%以上という方針のもと、業績連動で終わった期の年間配当を1株当たり195円の開示をしておりましたが、そこから229円に引き上げることといたしました。以上が今回の決算のポイントになります。



## 1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ

## 2. FY23 1-4Q セグメント別業績

## 3. FY24 業績予想

## 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗

## 5. 補足資料

続きまして、詳細説明に入ります。

## 1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ 連結業績



(単位: 億円) 発表日(年/月/日)	FY22 1-4Q a	FY23 1-4Q b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a	FY23 計画 23/11/14 c	増減 b-c	増減率 (b-c)/c
受注高	8,152	<b>8,205</b>	+53	+0.7%	7,900	+305	+3.9%
売上収益	6,808	<b>7,593</b>	+784	+11.5%	7,470	+123	+1.7%
営業利益	705	<b>860</b>	+154	+21.9%	710	+150	+21.2%
営業利益率	10.4%	<b>11.3%</b>	+0.9pts		9.5%	+1.8pts	
親会社の所有者に帰属する当期利益	504	<b>602</b>	+97	+19.4%	523	+79	+15.3%
ROIC*1	11.6%	<b>12.2%</b>	+0.6pts		10.4%	+1.8pts	
ROE	15.0%	<b>15.7%</b>	+0.7pts		13.9%	+1.8pts	
為替レート*2							
対米ドル (円)	131.37	140.50	+9.13		130.00	+10.50	
対ユーロ (円)	137.97	151.90	+13.93		137.00	+14.90	
対人民元 (円)	19.50	19.83	+0.33		19.50	+0.33	

\*1 ROIC: ROIC計算式に関してFY23より以下のとおり分子を従来の「親会社の所有者に帰属する当期利益」から「NOPLAT(みなし税引後営業利益)」に変更しており、FY22のROICについても比較のため新計算式を用いている (FY22 従来ROICでは11.2%)  
(計算式) NOPLAT(みなし税引後営業利益) = {有利子負債(期首期末平均) + 親会社の所有者に帰属する持分(期首期末平均)}

\*2 為替レートは各四半期における期中平均レートを単純平均で表記

5 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5 ページ目をご覧ください。2023 年度の通期の連結業績です。前年対比でご説明をいたします。受注はほぼ前期並み、微増でした。売上は 784 億円増加して 7,593 億円、営業利益は 154 億円増加して 860 億円、営業利益率についても 11.3%と昨年を 0.9%ポイント上回っている状態です。親会社の所有者に帰属する当期利益は、602 億円と、初の 600 億円台となっております。スライドの右側に示した 11 月公表済みの計画値からは、いずれの項目でも上回る着地となっております。

## 1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位: 億円) 発表日(年/月/日)		FY22 1-4Q a	FY23 1-4Q b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a	FY23 計画 23/11/14 c	増減 b-c	増減率 (b-c)/c
連結合計	受注高	8,152	<b>8,205</b>	+53	+0.7%	7,900	+305	+3.9%
	売上収益	6,808	<b>7,593</b>	+784	+11.5%	7,470	+123	+1.7%
	営業利益	705	<b>860</b>	+154	+21.9%	710	+150	+21.2%
	営業利益率	10.4%	<b>11.3%</b>	+0.9pts		9.5%	+1.8pts	
建築・産業	受注高	2,048	<b>2,213</b>	+164	+8.0%	2,200	+13	+0.6%
	売上収益	1,935	<b>2,221</b>	+286	+14.8%	2,100	+121	+5.8%
	営業利益	114	<b>157</b>	+43	+38.0%	130	+27	+21.1%
	営業利益率	5.9%	<b>7.1%</b>	+1.2pts		6.2%	+0.9pts	
エネルギー	受注高	1,480	<b>2,227</b>	+747	+50.5%	2,170	+57	+2.7%
	売上収益	1,436	<b>1,672</b>	+236	+16.5%	1,650	+22	+1.4%
	営業利益	169	<b>223</b>	+54	+31.9%	145	+78	+54.1%
	営業利益率	11.8%	<b>13.4%</b>	+1.6pts		8.8%	+4.6pts	
インフラ	受注高	535	<b>566</b>	+30	+5.7%	490	+76	+15.6%
	売上収益	462	<b>501</b>	+39	+8.5%	500	+1	+0.4%
	営業利益	39	<b>46</b>	+6	+17.3%	30	+16	+53.5%
	営業利益率	8.5%	<b>9.2%</b>	+0.7pts		6.0%	+3.2pts	
環境	受注高	1,058	<b>1,008</b>	-49	-4.7%	900	+108	+12.1%
	売上収益	737	<b>715</b>	-21	-3.0%	710	+5	+0.8%
	営業利益	36	<b>69</b>	+32	+89.0%	50	+19	+38.7%
	営業利益率	5.0%	<b>9.7%</b>	+4.7pts		7.0%	+2.7pts	
精密・電子	受注高	3,015	<b>2,177</b>	-837	-27.8%	2,130	+47	+2.2%
	売上収益	2,222	<b>2,469</b>	+247	+11.1%	2,500	-30	-1.2%
	営業利益	361	<b>382</b>	+21	+5.8%	360	+22	+6.3%
	営業利益率	16.3%	<b>15.5%</b>	-0.8pts		14.4%	+1.1pts	
その他、調整	受注高	13	<b>11</b>	-2	-14.9%	10	+1	+16.6%
	売上収益	14	<b>11</b>	-2	-18.8%	10	+1	+20.0%
	営業利益	-15	<b>-18</b>	-3	-	-5	-13	-
	営業利益率	-104.3%	<b>-156.9%</b>	-52.6pts		-50.0%	-106.9pts	

6 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved



各セグメントの前年対比についてのご説明です。左側が前年対比、右側が計画値との対比でございます。

受注につきまして、まず前年対比からご説明しますと、エネルギーセグメントが、LNG 市場で 100 億円を超える規模の大型案件の複数受注があったことによりまして、前期と比べて 50%増と好調に推移いたしました。

建築・産業やインフラの両セグメントも前期を上回っております。環境は、ほぼ横ばいでしたが、低迷する半導体市場の影響を受けた精密・電子セグメントで大幅に減少という形になっております。セグメント間の好不調はありましたが、連結全体では昨年をやや上回る水準に着地しております。

売上収益につきましては、環境がわずかに下回りましたが、その他各セグメントでは増加となっております。営業利益につきましては、全 5 セグメントで前年対比改善しておりまして、特にエネルギーおよび建築・産業がそれをけん引しております。

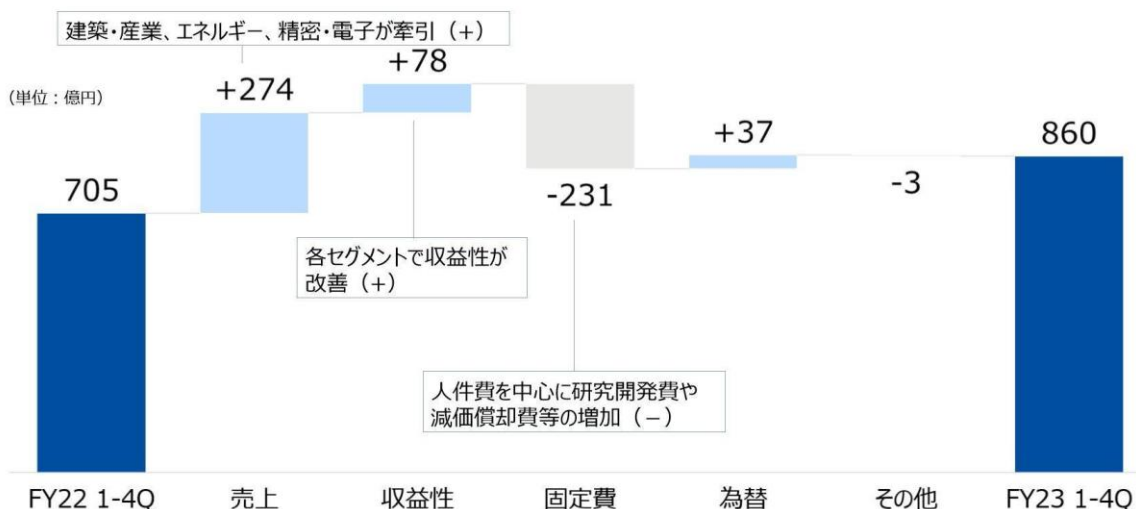
次に、右側の計画値からの差異についてですが、受注については、環境が比較的大型のアフター案件の追加受注がありまして、11 月 14 日の第 3 クォーター発表の時点よりも後に、期末において上振れをしております。

売上については、建築・産業を中心に、期末に向けて国内や中国の市場において売上が想定していた以上に伸びたこと等によりまして、上振れしております。

営業利益については、エネルギーセグメントで、客先の緊急時対応を含む比較的利益率の高いアフター案件の売上が想定外に期末になって入ってきた他、その他のセグメントにおいても原価低減等の収益性改善策が想定以上に功を奏しまして、上振れる結果となっております。

それぞれの要因の中で、11 に公表した計画地を上振れて着地しております。

固定費が増加したが、増収に加えて収益性の改善により増益



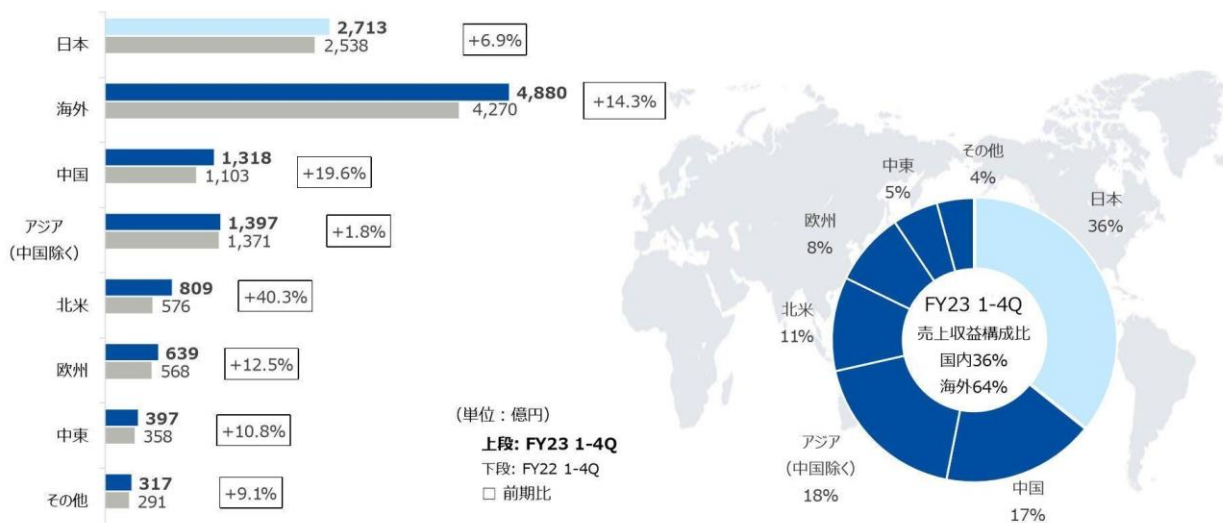
7 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

7 ページ目です。営業利益に関しまして、前期の 705 億円から、当期の 860 億円まで 154 億円増加しましたが、その要因分析でございます。今期は、業績連動賞与や、必要な人材確保などによる影響によって、人件費が大幅に増加している点、それから、研究開発費なども含めまして固定費が増加した面もございまして、固定費が 231 億円と増加して、それが利益面ではネガティブに影響しましたが、増収による利益増 274 億円がそれを上回りました。

それから収益性に関しましては、精密・電子セグメントでは案件ミックス等の影響によって、やや収益性は悪化したものの、それ以外の各セグメントで着実に改善が見られまして、78 億円のプラスとなっております。

為替要因に関しては、プラス 37 億円で、円安による影響という寄与も若干ございますが、それらの結果として 860 億円という形で着地しております。

## 1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ 地域別売上収益



※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す

8 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

8 ページ目、地域別の売上収益の構成でございます。海外売上構成比率は右側の円グラフの濃い青色の部分になっておりますが、23 年度は 64%が海外売上となっております、年々高い水準となってきております。

左の棒グラフは、上段が終わった期、下段がその前の 2022 年度ですが、上段が下段よりも伸びており、国内・海外とも全ての地域で対前年比売上が伸びている状況がわかりになると思います。

地域別で見えていきますと、中国では、建築市場では減速が見られましたが、産業市場、それから公共インフラ市場、石油化学、電力、半導体関連など、当社事業が対面する市場においてお客様の投資が底堅く推移し、結果的に前年対比売上が伸びている状況でございます。

北米や中東でも、エネルギーセグメントを中心に好調に推移しております。特に北米については、建築・産業セグメントにおいて、2022 年第 3 クォーターに買収したカナダの会社、Hayward Gordon 社の連結化による増加が、インオーガニックな売上増として寄与している状況でございます。

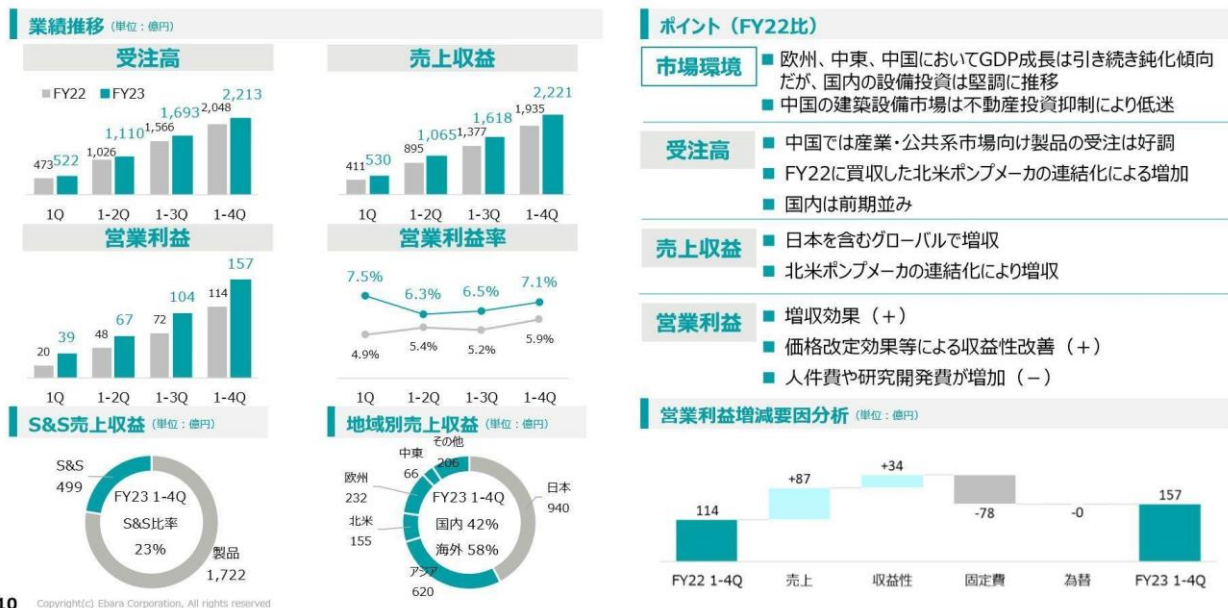
セグメント別の地域別時系列推移は、35 ページにも詳細の情報は掲載しておりますので、そちらもあわせてご参照ください。

- 1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ
- 2. FY23 1-4Q セグメント別業績
- 3. FY24 業績予想
- 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
- 5. 補足資料

続きましてこれ以降、セグメント別の業績の説明に入ります。

## 2. FY23 1-4Q セグメント別業績

### 建築・産業



10 ページ目で、まず建築・産業セグメントです。受注、売上、営業利益、いずれも前年度を上回っております。建築設備市場は全般的に、海外では成長がやや鈍化する一方で、国内の設備投資は堅調に推移しました。そのような中で、受注の増加要因としては、不動産市況が低調な中国におい

て、省エネ製品への需要の高まりや、公共インフラ投資の進展などもあり産業市場や公共市場向けで増加しております。

売上は、受注の増加による影響、および価格改定効果などによって拡大しまして、前年同期を上回っております。営業利益は、増収効果に加えまして、製品価格改定による収益性改善の効果もございまして、増益となっております。先ほど申し上げました通り、Hayward Gordon 社買収によるインオーガニックの成長もこの中には含んでおります。

## 2. FY23 1-4Q セグメント別業績 エネルギー



### 業績推移 (単位: 億円)



### ポイント (FY22比)

- 市場環境**
  - LNG市場では北米を中心に活発な動きがみられる
  - 石油・ガスのダウンストリーム市場では、北米やアジア、中東で石油化学案件に動きがみられる
- 受注高**
  - 製品は北米や中東、アジアで大型案件を複数受注し増加
  - S&Sは計画比では大幅に増加したが、前期比では弱含み
  - 中国では石油化学や電力向けが好調
- 売上収益**
  - 北米や中東、日本を含むアジアで増収
  - S&S、製品共に大幅に増収
- 営業利益**
  - 増収効果 (+)
  - 選別受注やS&S増加、価格改定効果で収益性が改善 (+)
  - 計画通りサービス拠点の統廃合や人材への投資を行い、費用が増加 (-)

### 営業利益増減要因分析 (単位: 億円)



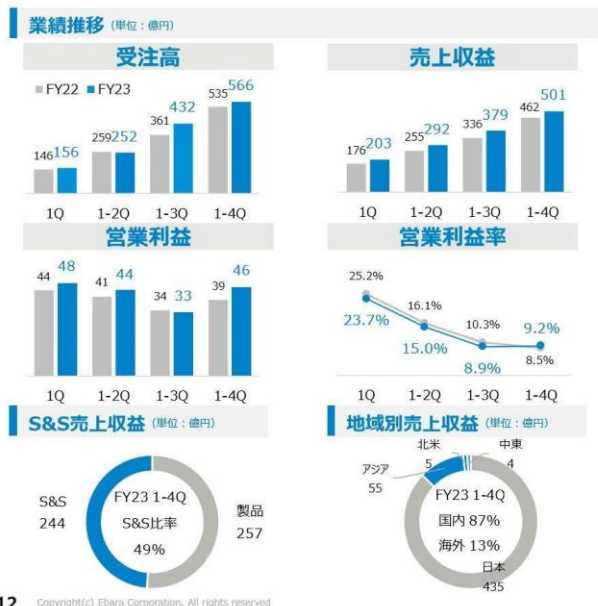
11 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

エネルギーセグメントでございます。受注、売上、営業利益、いずれも前期を上回っている状況です。LNG 案件は、北米を中心に活発な動きが見られまして、また石油化学案件においても、北米、アジア、中東市場が順調に推移し、それらの地域で当社グループの受注も好調に推移しております。

特に中国では、石油化学向け、電力向け受注が堅調でして、またサービス&サポートは 2022 年から高受注水準が継続し、期初想定よりは上回ったものの、下期に入ってやや減少の傾向が見えてきたのが、エネルギー事業のサービス&サポートの状況でございます。

売上は、製品受注が好調で北米や中東、中国を含むアジアで増収となっている一方、サービス&サポートにつきましても堅調に推移している状況でございます。営業利益は、増収効果に加えまして、製品売上の収益性改善や価格改定効果などによって増益となっている状況でございます。

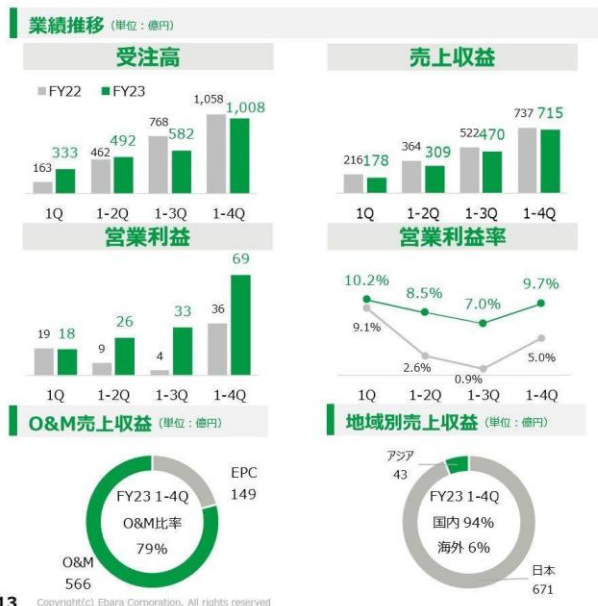
## 2. FY23 1-4Q セグメント別業績 インフラ



12 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

続きまして、インフラセグメントです。受注、売上、営業利益ともに前期を上回っております。国内において、ポンプ設備の更新、補修に対する需要が堅調で、受注は下期に大型案件を複数受注したこともあり、前期を上回っております。海外の水インフラ向けの案件でも受注が増加しております。

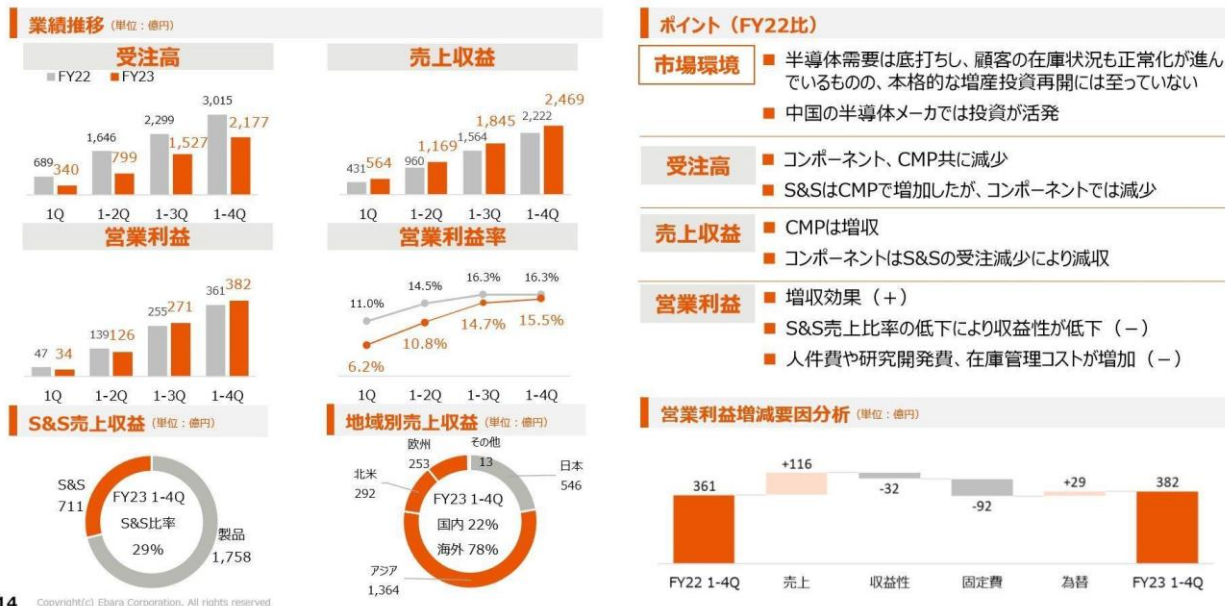
国内外ともに売上を伸ばしたことによる増収効果と、収益性の高い工事進行売上が進捗したことによって、営業利益は前期比で増益となっているのがインフラセグメントの状況でございます。



13 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

続きまして、環境セグメントですが、受注、売上は前期と比較して微減となっておりますが、営業利益は大幅な増益、減収増益となっております。受注は、大型案件を4件受注しました前年度との比較においては減少しましたが、DBOの大型案件と長期包括案件、合計2件を今期受注しており、1,000億円を超える高水準を維持しました。

売上は、過年度のEPC案件における受注が少なかった影響で、当期のEPC売上が減少しました。一方で、オペレーション&メンテナンスは安定した売上を計上している状況です。営業利益は、売上のO&M売上比率が高まったことに加えまして、売電事業における収益性改善等の効果がございまして、あとは一昨年に発生しました一過性の費用が当期には発生しなかったこともあり、増益となっている状況でございます。



精密・電子事業です。受注は前期を大きく下回りましたが、増収増益となっている状況です。半導体市場は、中国の半導体メーカーで活発な投資が継続していますが、グローバルにおいては設備投資の延期や一部の中止が継続しておりまして、本格的な回復には至ってない状況でございます。

これを受けた当社の受注状況も、中国顧客からの受注増も見られました中で、全体的には依然として低水準であり、前期比 837 億円減の 2,177 億円で着地しています。売上については、CMP において期初受注残の消化が着実に進んだことで増収となっておりますが、コンポーネントにおいて顧客の工場の稼働率が低調であったことの影響を受け、オーバーホール等のサービス&サポートが減少しておりまして、売上全体も減収となっている状況でございます。

営業利益につきましては、サービス&サポート売上が減少し、固定費も増加したものの、増収効果や、為替の影響を受けて前年対比増益となっております。以上、2023 年度、終わった期の業績に関する説明でございました。



1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ
2. FY23 1-4Q セグメント別業績
- 3. FY24 業績予想**
4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
5. 補足資料

浅見：それでは浅見から、2024年の通期の業績予想についてご説明させていただきます。

### 3. FY24 業績予想 連結業績

(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q				1-2Q			
	FY23 実績 a	FY24 計画 24/02/14 b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a	FY23 実績 c	FY24 計画 24/02/14 d	増減 d-c	増減率 (d-c)/c
受注高	8,205	<b>8,340</b>	+134	+1.6%	3,676	<b>3,845</b>	+168	+4.6%
売上収益	7,593	<b>8,270</b>	+676	+8.9%	3,638	<b>4,025</b>	+386	+10.6%
営業利益	860	<b>870</b>	+9	+1.1%	337	<b>385</b>	+47	+14.0%
営業利益率	11.3%	<b>10.5%</b>	-0.8pts	-	9.3%	<b>9.6%</b>	+0.3pts	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	602	<b>608</b>	+5	+0.9%	205	<b>253</b>	+47	+22.9%
ROIC	12.2%	<b>11.0%</b>	-1.2pts					
ROE	15.7%	<b>14.2%</b>	-1.5pts					
1株当たり年間配当金	229	<b>230</b>	+1					
<b>為替レート*</b>								
対米ドル (円)	140.50	140.00	-0.50		134.79	140.00	+5.21	
対ユーロ (円)	151.90	150.00	-1.90		145.66	150.00	+4.34	
対人民元 (円)	19.83	19.50	-0.33		19.46	19.50	+0.04	

\* 為替レート：FY23は四半期毎の期中平均レート実績を単純平均した値で表記。FY24は年間想定為替レートを表記

16 ページになります。2024年の事業環境についてですが、ウクライナ情勢が長期化し、世界的なインフレもまだ継続、それから中国や欧米を中心とした景気後退懸念や、米中対立により、半導体輸出管理規制が強化されてきているなどの地政学的なリスクは高まってきていると認識しております

す。当社が対面する市場におきましても、それらの影響について引き続き注視が必要な状況となっております。

また、半導体需要の低迷につきましましては、底打ちしている状況と認識しており、お客様の製品在庫の正常化も進んではいますが、いまだ本格的な増産投資再開には至っておらず、総じて調整局面がまだ継続しているという状況でございます。

そのような中で、2024年の業績予想につきましては、受注は前年と比較して134億円増で8,340億円、売上は676億円増やして8,270億円、そして営業利益は10億円増の870億円、それによって営業利益率は10.5%、ROICは11%、ROEは14.2%、1株あたりの年間配当につきましては230円を予想しております。為替レートにつきましては、記載の通りでございます。

### 3. FY24 業績予想 セグメント別

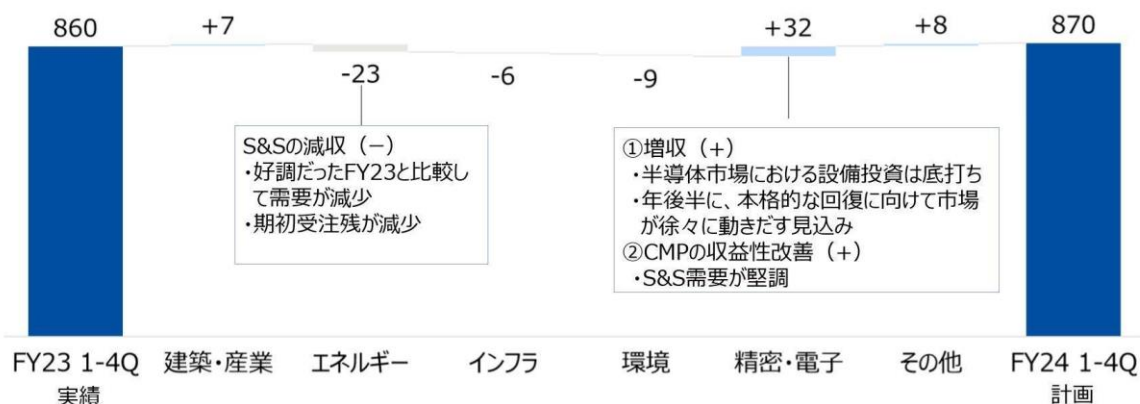


(単位: 億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q				1-2Q			
	FY23 実績	FY24 計画	増減	増減率	FY23 実績	FY24 計画	増減	増減率
	a	b	b-a	(b-a)/a	c	d	d-c	(d-c)/c
<b>連結合計</b>	受注高 8,205	<b>8,340</b>	+134	+1.6%	3,676	<b>3,845</b>	+168	+4.6%
	売上収益 7,593	<b>8,270</b>	+676	+8.9%	3,638	<b>4,025</b>	+386	+10.6%
	営業利益 860	<b>870</b>	+9	+1.1%	337	<b>385</b>	+47	+14.0%
	営業利益率 11.3%	<b>10.5%</b>	-0.8pts		9.3%	<b>9.6%</b>	+0.3pts	
<b>建築・産業</b>	受注高 2,213	<b>2,300</b>	+86	+3.9%	1,110	<b>1,170</b>	+59	+5.3%
	売上収益 2,221	<b>2,300</b>	+78	+3.5%	1,065	<b>1,130</b>	+64	+6.1%
	営業利益 157	<b>165</b>	+7	+4.8%	67	<b>65</b>	-2	-3.5%
	営業利益率 7.1%	<b>7.2%</b>	+0.1pts		6.3%	<b>5.8%</b>	-0.5pts	
<b>エネルギー</b>	受注高 2,227	<b>2,000</b>	-227	-10.2%	1,014	<b>840</b>	-174	-17.2%
	売上収益 1,672	<b>2,000</b>	+327	+19.6%	794	<b>965</b>	+170	+21.4%
	営業利益 223	<b>200</b>	-23	-10.5%	73	<b>90</b>	+16	+22.9%
	営業利益率 13.4%	<b>10.0%</b>	-3.4pts		9.2%	<b>9.3%</b>	+0.1pts	
<b>インフラ</b>	受注高 566	<b>550</b>	-16	-2.9%	252	<b>250</b>	-2	-1.1%
	売上収益 501	<b>510</b>	+8	+1.6%	292	<b>305</b>	+12	+4.2%
	営業利益 46	<b>40</b>	-6	-13.1%	44	<b>40</b>	-4	-9.1%
	営業利益率 9.2%	<b>7.8%</b>	-1.4pts		15.0%	<b>13.1%</b>	-1.9pts	
<b>環境</b>	受注高 1,008	<b>680</b>	-328	-32.6%	492	<b>240</b>	-252	-51.3%
	売上収益 715	<b>800</b>	+84	+11.8%	309	<b>385</b>	+75	+24.3%
	営業利益 69	<b>60</b>	-9	-13.5%	26	<b>35</b>	+8	+33.0%
	営業利益率 9.7%	<b>7.5%</b>	-2.2pts		8.5%	<b>9.1%</b>	+0.6pts	
<b>精密・電子</b>	受注高 2,177	<b>2,800</b>	+622	+28.6%	799	<b>1,340</b>	+540	+67.6%
	売上収益 2,469	<b>2,650</b>	+180	+7.3%	1,169	<b>1,235</b>	+65	+5.6%
	営業利益 382	<b>415</b>	+32	+8.4%	126	<b>160</b>	+33	+26.8%
	営業利益率 15.5%	<b>15.7%</b>	+0.2pts		10.8%	<b>13.0%</b>	+2.2pts	
<b>その他、調整</b>	受注高 11	<b>10</b>	-1	-14.2%	5	<b>5</b>	-0	-15.4%
	売上収益 11	<b>10</b>	-1	-16.7%	6	<b>5</b>	-1	-19.5%
	営業利益 -18	<b>-10</b>	+8	-	0	<b>-5</b>	-5	-
	営業利益率 -156.9%	<b>-100.0%</b>	+56.9pts		9.1%	<b>-100.0%</b>	-109.1pts	

17 ページになります。セグメント別の業績予想で主要なものについてご説明させていただきたいと思っております。受注は、精密・電子において、半導体市況の下期からの回復を想定しております。そして、前期から622億円増やして2,800億円と見込んでございます。

売上は、エネルギーにおいて前期の大型受注、売上の計上がございましたので、前期から327億円増やしまして2,000億円と見込んでございます。営業利益につきましては次のページでご説明させていただきます。

成長投資、基盤投資を戦略的に強化しつつ前年度以上の利益水準を見込む



18 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

18 ページになります。24 年の営業利益、870 億円を見込んでございますけれど、前年 860 億円から 10 億円増やした増減要因についてご説明させていただきます。

今期につきましては、売上増加、CMP の案件ミックスによって収益の改善を見込んでおりまして、精密・電子の利益貢献が大きくなり、サービス&サポートの需要が落ち着くと見ておりますエネルギーセグメントの減益分をカバーして、前期比で増益となる計画としております。

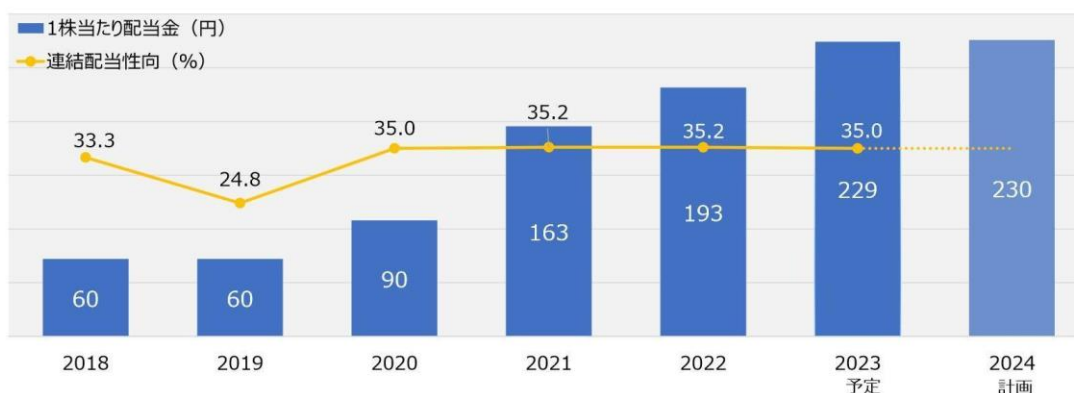
そして、精密・電子の生産能力の増強などに、設備投資を行う予定としております。それに加えて人材の確保、人的資本への投資。それから全社の ERP 導入をはじめとする経営インフラの強化、さらには、エネルギートランジションにおける水素、アンモニアといった新エネルギーの市場に向けて研究開発を引き続き積極的に行っていく予定としております。営業利益率は、前期比で低下する計画としておりますが、引き続き高い利益水準の達成を目指してまいります。

### 3. FY24 業績予想

## 株主還元



- FY23の1株あたり年間配当金は229円（前期比+36円）を予定
- FY24の1株あたり年間配当金は230円（前期比+1円）を計画



#### 配当方針

連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動して実施する方針

19 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

19 ページでございます。株主還元につきましては、連結配当性向 35%以上を目標としております。23 年度、1 株当たりの年間配当金は 229 円と見直しを予定しております。これは、前期比に対して 36 円増となりまして、連結配当性向は 35.0%となる見込みでございます。また、24 年度につきましては 230 円を計画しております。



1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ
2. FY23 1-4Q セグメント別業績
3. FY24 業績予想
- 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗**
5. 補足資料

20 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

次に、2023年2月に発表させていただきました中期経営計画、E-Plan2025の進捗についてご説明させていただきます。

#### 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗 E-Plan2025の位置づけ



E-Plan2022で実現した高水準の効率性・収益性以上を目指しつつ、建築・産業市場と半導体製造装置市場を中心にトップラインの成長を実現する



21 Copyright© Ebara Corporation, All rights reserved

※ROIC計算式  
NOPLAT(みなし税引後営業利益)÷投下資本(有利子負債(期首期末平均)+株主資本(期首期末平均))

E-Plan2025は、長期ビジョンE-Vision2030の2030年にありたい姿からバックキャストして、E-Plan2022を総括して見えてきた課題を受けて策定したものでございます。プロダクトアウトからマーケットインへの視点で、取り組みを加速するため、顧客起点での価値創造をテーマとし、それぞれの事業でさらなる競争力強化を進めております。経済価値において目標としている指標は、こちらに示させていただいた通りとなっております。

## E-Plan2025 財務数値目標

- FY23は、ソリューションビジネス拡大に向けた新たな製品開発に加え、経営インフラの高度化のためのシステム投資などに積極的に取り組みながらも、各事業で想定以上に収益性が改善し、いずれの指標も前年を上回った
- FY24の効率性、収益性は先行投資負担があるものの高水準を維持し、FY25の目標達成を確実なものとする

		E-Plan2025			
	指標	FY22実績	FY23実績	FY24計画	FY25目標
効率性	ROIC*	11.6%	12.2%	11.0%	10%以上
	ROE	15.0%	15.7%	14.2%	15%以上
収益性	営業利益率	10.4%	11.3%	10.5%	10%以上
成長性	売上CAGR (売上収益)	(6,808億円)	11.5% ※FY22-23 (7,593億円)	10.2% ※FY22-24 (8,270億円)	7%以上 ※FY22-25

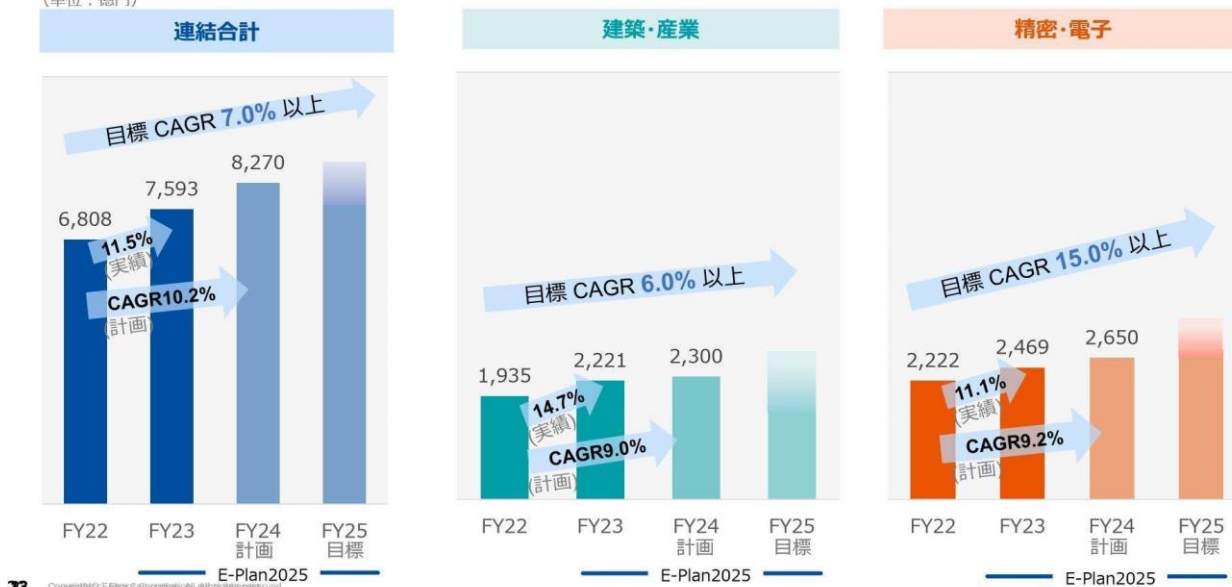
\*ROIC計算式：NOPLAT(みなし税引後営業利益)÷投下資本〔有利子負債(期首期末平均)+株主資本(期首期末平均)〕

22 Copyright(C) Ebara Corporation, All rights reserved

最初に、財務数値目標の進捗についてご説明します。23年の実績は、ROIC12.2%、ROE15.7%、営業利益率11.3%、売上成長率CAGRは11.5%と、いずれも2022年を上回る水準となりました。

E-Plan2025の期間中は、2030年にありたい姿の達成に向け、各事業の競争力を強化するため、成長のための投資、基盤投資を行っていくことを重視した計画としております。一方で、効率性、収益性指標は、今まで築き上げてきた高い水準以上を目指しております。2023年は、投資は確実に実行した中で、各事業での稼ぐ力が着実に向上したということで、いずれの指標も2022年を上回る水準となりました。

2024年におきましては、2023年以上に成長投資、基盤投資を実行することを予定しており、効率性、収益性、成長性、いずれにおいても2023年の実績をやや下回る計画となっておりますけれど、引き続き高水準のレベルを維持する計画とさせていただきます。

売上収益  
(単位：億円)

成長の指標におきましては、売上 CAGR を設定しております。全社で 7% 以上、成長事業と位置づけた建築・産業では 6% 以上、精密・電子におきましては 15% 以上を目標としております。

こちらのグラフに示させていただいておりますように、連結合計、建築・産業の進捗は順調でございます。精密・電子の進捗は、現在も継続している半導体市場の設備投資の低迷によって、若干遅れてございますけれども、2024 年後半からの市場回復を見込みまして、しっかり体制を整えて、2025 年の目標達成に向けて、着実に施策を進めてキャッチアップしてまいります。

## E-Plan2025 キャッシュアロケーション

- E-Plan2025（3年計画）の1年目の進捗としては順調
- FY24も成長分野を中心に積極的に投資を行う
- 特に精密・電子は将来の市場の拡大を見据えてFY24も投資を加速
- 資本効率を重視した投資と安定的な株主還元を意識

<FY24主な投資案件>

- **建築・産業**：M&A等を通じた海外成長市場の取り込み
- **エネルギー**：S&S拠点の最適化、生産拠点の合理化
- **精密・電子**：工場や研究開発棟の国内外での建設
- **新規事業領域**への投資、全グループへのERP導入

(単位：億円)



\*営業活動CFは研究開発費控除前の数値  
成長投資にはM&A案件を含む

こちらは、E-Plan2025 期間のキャッシュアロケーションの推移でございます。一番右側が、発表時の3カ年の累計計画となります。100億円を超える大型買収案件が2022年にはございましたが、2023年は大きな買収案件はございませんでした。ただ、成長投資、基盤投資は、あわせておむね2022年並みとなりました。

2024年は、赤枠に示させていただいておりますように、建築・産業におけるM&A投資、そしてエネルギーにおけるサービス&サポート拠点の最適化、精密・電子におけるCMP生産工場の増設、藤沢の開発棟の建築など、成長投資を拡大・継続していく計画でございます。

これに加えまして、水素など新規事業領域への投資や、全社のERP導入など、各事業の競争力の強化だけではなくて、新たな収益の柱となる事業の立上げ、それらを支えます経営インフラの整備など、2025年の目標値に向かって確実に投資を実行して、競争力を強化してまいります。



## E-Plan2025 進捗・成果

- E-Plan2025の基本方針に従い、対面市場別組織へ移行するとともにCxO制を導入し、複合的なソリューションの開発や経営インフラの高度化、ESGへの取り組みを推進

## 対面市場別・顧客起点

- 対面市場軸による組織再編成
- 各セグメントで組織の一体化を進め、同一顧客からの複数製品同時受注などのシナジーを創出
- 増産投資や、研究開発体制の整備、新拠点の設立を推進
- 海外拠点の整備（M&A等の手段を含む）

## 今後の取り組み

- 各セグメントでの新製品の市場投入やS&S市場における顧客起点での各種取り組みを強化
  - ▶ **建築・産業**：ソリューション営業強化、海外生産拠点の連携
  - ▶ **エネルギー**：S&S拠点の最適化、統合組織の本格稼働
  - ▶ **インフラ**：東南アジアでエンジニアリング技術のサポートを強化
  - ▶ **環境**：ケミカルリサイクルパイロット試験設備の稼働準備 EPC・DBOの安定受注
  - ▶ **精密・電子**：グローバルでの増産投資や開発投資の継続

## 新たな価値の創発

- 高付加価値のソリューション開発を推進
- 新エネルギー案件向けのコンプレッサを受注
- 世界初となる水素関連製品の開発
- 液体アンモニア用キャンドモーターポンプの上市



液体水素昇圧ポンプ



水素焚吸収冷温水機

液体アンモニア用  
キャンドモーターポンプ

## 今後の取り組み

- ソリューション提供型ビジネスの開発を加速
- 水素、アンモニア、CCUSなど、エネルギー転換、カーボンニュートラルの実現に貢献するビジネスの推進
- 陸上養殖、構造たんぱく質、培養肉関連など新規事業に対する投資の継続

こちらに、E-Plan2025の重点領域について、初年度23年度の進捗とその成果をまとめさせていただきました。

まず、大きな成果と考えてございますのは、2023年1月より、従来の製品別組織から対面市場別組織に移行いたしました。CxO制を導入しました。対面市場別組織への移行により、建築・産業におきましては、従来の標準ポンプ事業、冷熱事業、送風機事業の一体経営を開始することができました。エネルギーにおきましても、コンプレッサ・タービンを手がけるエリオットと、カスタムポンプを手がける荏原が、組織としても文字通り一体となりまして、共通する顧客への営業、サービス&サポートの提供を開始しております。

今後の取り組みといたしましては、顧客起点での価値創造を進めるために、精密・電子において、グローバルでの生産投資、そして研究開発への投資を進めてまいります。

また、インフラでは、東南アジアを中心にエンジニアリングサービスを強化いたしました。環境においてもケミカルリサイクルの実現に向けて、ICFG、流動床の技術を使った焼却炉の技術を使用した、廃プラスチックのケミカルリサイクルのパイロットプラントの建設を進めてまいります。

また、新たな価値の創発としては、製品軸から対面市場別組織への移行によって集結させた複数の製品、ノウハウを生かしまして、顧客起点でのソリューション開発、そして世界初となる水素関連製品、液体アンモニア用キャンドモーターポンプをはじめとした、新エネルギー向けの製品開発を行ってまいりました。

今後は、建築・産業におけるメンテナンスクラウドのサービスの拡大、そして水素、アンモニア向け製品の販売、そして陸上養殖、構造たんぱく質、培養肉といった新規事業の推進をさらに図ってまいります。

#### 4.中期経営計画「E-Plan2025」の進捗

### E-Plan2025 進捗・成果



経営インフラの高度化/効率化	ESG経営の深化
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CxO制の導入を通じたグループガバナンスの拡充</li> <li>■ 国内外グループ会社におけるERPシステムの運用開始</li> <li>■ DXを活用した事業強化（設計の自動化による生産性向上等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2050年カーボンニュートラルの実現に向けた、削減貢献量を含むGHG *1削減施策の検討               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ バリューチェーンにおけるCO2 1億トン削減目標指標の再定義</li> </ul> </li> <li>■ ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョン（DE&amp;I）の推進部署の設置</li> <li>■ 人的資本経営の強化</li> </ul>
<b>今後の取り組み</b>	<b>今後の取り組み</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル経営を実現するグループ全体へのERP導入</li> <li>■ ROIC経営の更なる深化               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 知財ROICによる知的財産の効率的活用</li> <li>▶ 生産革新ROICによる生産現場からの収益性改善</li> </ul> </li> <li>■ グローバル人材マネジメント基盤の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ カーボンニュートラルに資する施策の導入               <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ グリーン電力への切替拡大（国内外事業所における太陽光発電設備の設置）</li> <li>▶ 排ガス処理装置などのGHG分解製品の拡販</li> <li>▶ 水素・アンモニアなど新エネルギー分野での製品開発</li> </ul> </li> <li>■ G to V*2の実現（取締役会によるサクセッションプランの推進、サステナビリティに対する執行側への監督・助言など）</li> </ul>

次に、経営インフラの高度化・効率化といたしましては、先ほどご説明いたしましたCxO 制の導入に加えまして、2025年のグループでの稼働を見据えまして、一部のグループ会社へERPを導入し、運用を開始いたしました。今後は、引き続き全社へのERPの導入を進めるとともに、知財ROIC、そして生産革新ROICの活用を含む、ROIC経営のさらなる深化を進めてまいります。

また、ESG経営の深化といたしましては、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けまして、削減貢献量を含めた、温室効果ガスの削減施策の検討を進めてまいります。また、DE&I、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの部門を設置いたしまして、社内での浸透を図っております。

今後は、グリーン電力への切替えなど、カーボンニュートラルに資する施策を進めてまいりますとともに、排ガス処理装置による温暖化係数の高いガスの分解、半導体製造に使われるガス、それから水素、アンモニアにおける新製品の投入など、事業を通じた温室効果ガスの排出の削減を引き続き継続してまいります。

ガバナンスにおきましては、引き続き取締役会の実効性を高め、Governance to Valueを全社で進めてまいります。

## E-Plan2025 セグメント別進捗

- FY23に各種施策、投資を実行。建築・産業と精密・電子の利益成長については概ね計画どおり。エネルギー、インフラ、環境についてはFY24の営業利益率は下がるものの、FY25の目標達成に向けて着実に計画を遂行

位置づけ	セグメント	FY23の主な成果	E-Plan2025 財務数値目標 (営業利益率)		
			FY23実績	FY24計画	FY25目標
成長事業	建築・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スウェーデン拠点の設立、SKF社の事業譲受</li> <li>■ 複数の製品別遠隔監視システムを統合し、荏原メンテナンスクラウドで一括監視できるシステムを完成</li> </ul>	7.1%	7.2%	7.0%以上
	精密・電子	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マレーシアでオーバーホール工場を稼働</li> <li>■ 開発棟（藤沢）や生産拠点（熊本）、オーバーホール工場（東北）の建設開始</li> </ul>	15.5%	15.7%	17.0%以上
成長事業への 転換を図る事業	エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ LNG市場向けに複数の製品を保有する総合力を発揮し受注を拡大</li> <li>■ S&amp;Sの増加により収益性が向上</li> <li>■ 脱炭素関連の製品開発は順調で、新エネルギー案件向けにコンプレッサを受注</li> </ul>	13.4%	10.0%	12.0%以上
基盤事業 (安定的収益確保)	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高い施工能力と技術提案などが評価され受注が拡大、国内における雨水対策向けのポンプシェアが増加</li> </ul>	9.2%	7.8%	6.0%以上
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ O&amp;Mの売上を伸ばし、収益性も改善</li> </ul>	9.7%	7.5%	7.0%以上

27 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

こちらのスライドが最後になりますけれど、セグメント別に、E-Plan2025、初年度の主な成果と営業利益率の見通しをまとめました。各セグメントにおきまして、必要な投資を着実に実行するだけでなく、拠点の設立や新たなソリューション開発の進展、そして増産および開発投資、新組織でのシナジー創出による受注の拡大、シェアのアップ、収益性改善など、初年度から確実な成果を出すことができたと考えております。

競争力強化のための投資は確実に進行させております。24年は、さらにそれを加速させてまいります。営業利益率におきましては高水準を維持いたしまして、最終年度の目標達成に向けて施策を実行してまいります。

以上、中期経営計画、E-Plan2025の進捗についてご説明いたしました。私からのご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

1. FY23 1-4Q 連結決算サマリ
2. FY23 1-4Q セグメント別業績
3. FY24 業績予想
4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
- 5. 補足資料**

## 5. 補足資料 受注高

(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY22				FY23				FY24	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1-2Q 計画 24/02/14	1-4Q 計画 24/02/14
連結合計	1,770	3,994	5,945	8,152	1,979	3,676	5,983	8,205	3,845	8,340
建築・産業	473	1,026	1,566	2,048	522	1,110	1,693	2,213	1,170	2,300
エネルギー	291	592	938	1,480	623	1,014	1,738	2,227	840	2,000
インフラ	146	259	361	535	156	252	432	566	250	550
環境	163	462	768	1,058	333	492	582	1,008	240	680
精密・電子	689	1,646	2,299	3,015	340	799	1,527	2,177	1,340	2,800
コンポーネント	312	631	920	1,162	241	423	693	899	450	1,010
CMP	357	977	1,330	1,792	90	349	769	1,179	830	1,690
その他	20	37	48	60	7	26	64	98	60	100
その他	4	7	10	13	2	5	8	11	5	10

5. 補足資料  
売上収益



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY22				FY23				FY24	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1-2Q 計画 24/02/14	1-4Q 計画 24/02/14
連結合計	1,528	3,124	4,800	6,808	1,840	3,638	5,512	7,593	4,025	8,270
建築・産業	411	895	1,377	1,935	530	1,065	1,618	2,221	1,130	2,300
エネルギー	288	640	989	1,436	359	794	1,188	1,672	965	2,000
インフラ	176	255	336	462	203	292	379	501	305	510
環境	216	364	522	737	178	309	470	715	385	800
精密・電子	431	960	1,564	2,222	564	1,169	1,845	2,469	1,235	2,650
コンポーネント	219	458	731	1,014	238	477	719	974	450	1,010
CMP	195	470	790	1,157	317	676	1,093	1,447	760	1,540
その他	16	30	42	50	8	15	32	47	25	100
その他	3	6	10	14	3	6	9	11	5	10

32 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5. 補足資料  
営業利益



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY22				FY23				FY24	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1-2Q 計画 24/02/14	1-4Q 計画 24/02/14
連結合計	141	271	426	705	152	337	569	860	385	870
建築・産業	20	48	72	114	39	67	104	157	65	165
エネルギー	15	42	82	169	11	73	126	223	90	200
インフラ	44	41	34	39	48	44	33	46	40	40
環境	19	9	4	36	18	26	33	69	35	60
精密・電子	47	139	255	361	34	126	271	382	160	415
その他	-6	-8	-23	-15	0	0	0	-18	-5	-10

33 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5. 補足資料  
受注残高



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY22				FY23				FY24	
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1-2Q 計画 24/02/14	1-4Q 計画 24/02/14
連結合計	6,895	7,749	8,132	8,181	8,272	8,368	8,925	8,907	8,727	8,977
建築・産業	536	629	725	627	617	746	701	606	646	606
エネルギー	1,366	1,440	1,477	1,475	1,736	1,820	2,204	2,101	1,976	2,101
インフラ	483	511	541	595	513	525	673	674	619	714
環境	2,798	2,960	3,104	3,174	3,329	3,291	3,306	3,469	3,324	3,349
精密・電子	1,706	2,205	2,281	2,308	2,075	1,984	2,039	2,054	2,159	2,204
その他	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0

34 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5. 補足資料  
地域別売上収益



旧セグメント

(単位：億円)	FY22				FY23			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
風水力	876	1,792	2,702	3,833	1,094	2,152	3,186	4,395
日本	385	674	932	1,322	447	766	1,062	-
アジア（日本除く）	221	513	811	1,131	262	633	964	-
北米	64	131	234	343	174	230	374	-
欧州	81	190	302	401	74	189	286	-
中東	62	138	211	343	77	196	285	-
その他	60	142	210	291	58	136	213	-
環境	216	364	522	737	178	309	470	715
日本	211	343	499	701	178	298	450	671
アジア（日本除く）	4	20	23	35	0	11	20	43
精密・電子	431	960	1,564	2,222	564	1,169	1,845	2,469
日本	105	213	343	499	102	223	393	546
アジア（日本除く）	228	548	905	1,307	340	685	1,039	1,364
北米	51	111	180	233	60	129	206	292
欧州	43	82	128	167	54	121	195	253
その他	2	4	6	15	6	8	10	13

新セグメント

(単位：億円)	FY23			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
建築・産業	530	1,065	1,618	2,221
日本	236	452	663	940
アジア（日本除く）	135	290	464	620
北米	36	78	118	155
欧州	59	123	177	232
中東	20	32	54	66
その他	42	87	140	206
エネルギー	359	794	1,188	1,672
日本	18	49	70	106
アジア（日本除く）	117	319	456	630
北米	137	149	252	357
欧州	15	66	108	153
中東	55	161	228	312
その他	14	48	72	110
インフラ	203	292	379	501
日本	191	265	328	435
アジア（日本除く）	9	23	44	55
北米	0	1	3	5
中東	0	1	2	4
その他	0	0	0	0

35 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5. 補足資料

サービス&サポート売上収益



旧セグメント

(単位：億円)

		FY22				FY23			
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
風水力	S&S売上収益	337	640	918	1,364	439	834	1,186	1,707
	S&S比率	39%	36%	34%	36%	40%	39%	37%	39%
ポンプ	S&S売上収益	158	252	339	482				
	S&S比率	31%	26%	23%	23%				
コンプレッサ・タービン	S&S売上収益	137	306	466	705				
	S&S比率	62%	61%	61%	63%				
冷熱	S&S売上収益	35	71	98	154				
	S&S比率	35%	29%	27%	32%				
環境	O&M売上収益	154	247	355	509	150	255	376	566
	O&M比率	71%	68%	68%	69%	84%	82%	80%	79%
精密・電子	S&S売上収益	170	349	556	752	156	324	509	711
	S&S比率	39%	36%	36%	34%	28%	28%	28%	29%

新セグメント

(単位：億円)

		FY23			
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
建築・産業	S&S売上収益	108	217	315	499
	S&S比率	21%	20%	20%	23%
エネルギー	S&S売上収益	214	462	678	964
	S&S比率	60%	58%	57%	58%
インフラ	S&S売上収益	116	154	192	244
	S&S比率	57%	53%	51%	49%

36 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

5. 補足資料

貸借対照表



(単位：億円)

	FY22 4Q	FY23 4Q	増減 b-a
	a	b	
資産合計	8,280	9,139	+858
流動資産	5,806	6,483	+676
現金及び現金同等物	1,161	1,480	+319
営業債権	2,530	2,632	+102
棚卸資産	1,813	2,006	+192
その他流動資産	302	363	+61
非流動資産	2,473	2,655	+182
負債合計	4,583	4,923	+340
営業債務	1,746	1,532	-214
有利子負債	1,193	1,452	+259
その他負債	1,643	1,938	+295
資本合計	3,697	4,215	+518
親会社所有者帰属持分	3,599	4,098	+499
その他資本	97	116	+19
親会社所有者帰属持分比率	43.5%	44.8%	+1.3pts
D/Eレシオ	0.33	0.35	+0.02

37 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

## 5. 補足資料

## キャッシュ・フロー



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q				
	FY22	FY23	増減	FY24 計画 24/02/14	増減
	a	b	b-a	c	c-b
営業活動CF	370	700	+329	700	-0
投資活動CF	-383	-356	+26	-730	-373
フリーCF	-12	343	+356	-30	-373
財務活動CF	-237	-46	+190	-80	-33

38 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

## 5. 補足資料

## 資本的支出、減価償却費、研究開発費



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q FY22	1-4Q			
	a	FY23	増減	FY24 計画 24/02/14	増減
		b	b-a	c	c-b
資本的支出	275	406	+131	720	+313
風水力	109	95		140	+44
環境プラント	20	65		170	+104
精密・電子	63	5		20	+14
その他、調整	81	27	+7	30	+2
		122	+59	260	+137
		91	+9	100	+8
減価償却費	240	265	+25	290	+24
風水力	119	67		70	+2
環境プラント	8	49		50	+0
精密・電子	73	9		10	+0
その他、調整	38	7	-0	10	+2
		76	+2	80	+3
		55	+16	70	+14
研究開発費	152	182	+30	240	+57
風水力	74	45		50	+4
環境プラント	11	34		40	+5
精密・電子	66	6		10	+3
		14	+3	20	+5
		80	+14	120	+39

39 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved



**E** : 環境

2023年のCDPスコア：気候変動はBを維持、水セキュリティはCからBへ向上

**S** : 社会

令和 5 年度職業能力開発関係厚生労働大臣表彰を受賞

2023/12 News release

**G** : ガバナンス

「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2023」でGrand Prize Company (大賞) を受賞

2024/1 News release



外部評価

MSCI ESGレーティングにおいて最高評価「AAA」を初めて獲得

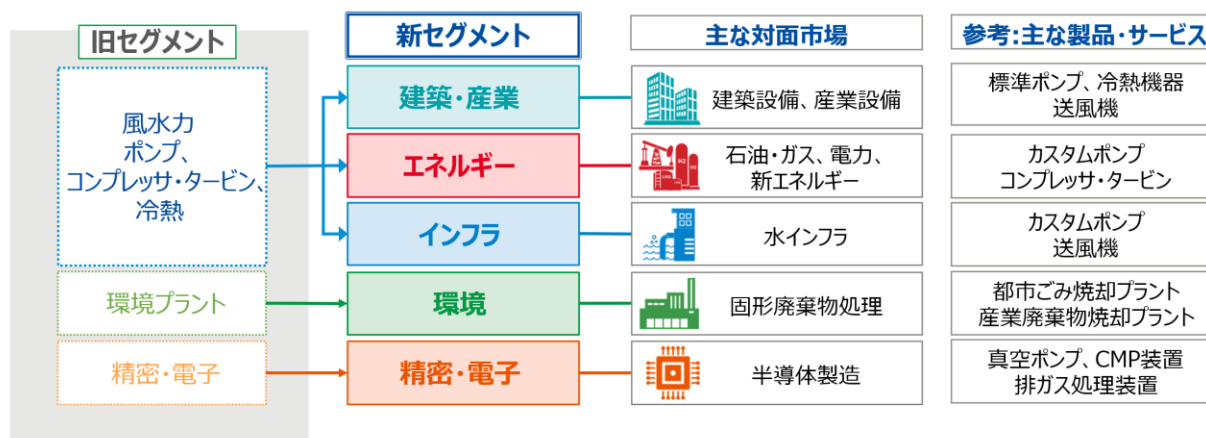
2023/12 News release

日本IR協議会「IR優良企業賞2023」及び「IR向上企業プレミアム」を受賞

2023/11 News release



2023年1月1日より、事業セグメントを製品軸セグメントから対面市場軸セグメントへ変更



## 免責事項

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。